

上地市長、

みんなの海を売っていいのですか？

相模湾海環境を守る会

私たちは、横須賀市西海岸の住民と漁業者が集まった小さな団体です。

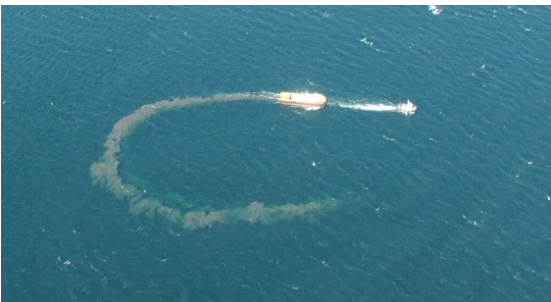
今回、市民の皆様はどうしても知って頂きたいことがあり、チラシをお届けしました。

週刊新潮に『小泉進次郎 地元後援者の「環境破壊」騒動には類かむり』という記事が載りました。【裏面参照】

この不法業者による海洋投棄をやめさせるよう、この一年間、私たちは訴え続けてきました。しかし、なぜか国も県も黙って見過ごしてきました。



↑「無法地帯」の芦名漁港／↓不法投棄の現場



そして、今年の八月から、この会社は、私たち漁業者の拠点となる芦名漁港の不法占拠まで始めました。
ところが上地市長は、この事業者に対し、一切の指導をしていないのです(十二月二十三日現在)。それどころか、市担当者は「申請が出てくれば許可することになっている」とまで言う始末です。



↑不法占用で設置されたバースと不法係留船

その会社の名前は湘南サニーサイドマリナー株式会社です。元横須賀市職員の羽柴宏昭という人物が社長をしており、行政の表も裏も知り尽くしています。一代で業界第2位の売り上げを誇る会社に育て上げましたが、その成長の裏で、多くの漁業者が泣かされ、地域住民は数々のトラブルに見舞われ、魚たちは棲みかを奪われてきました。

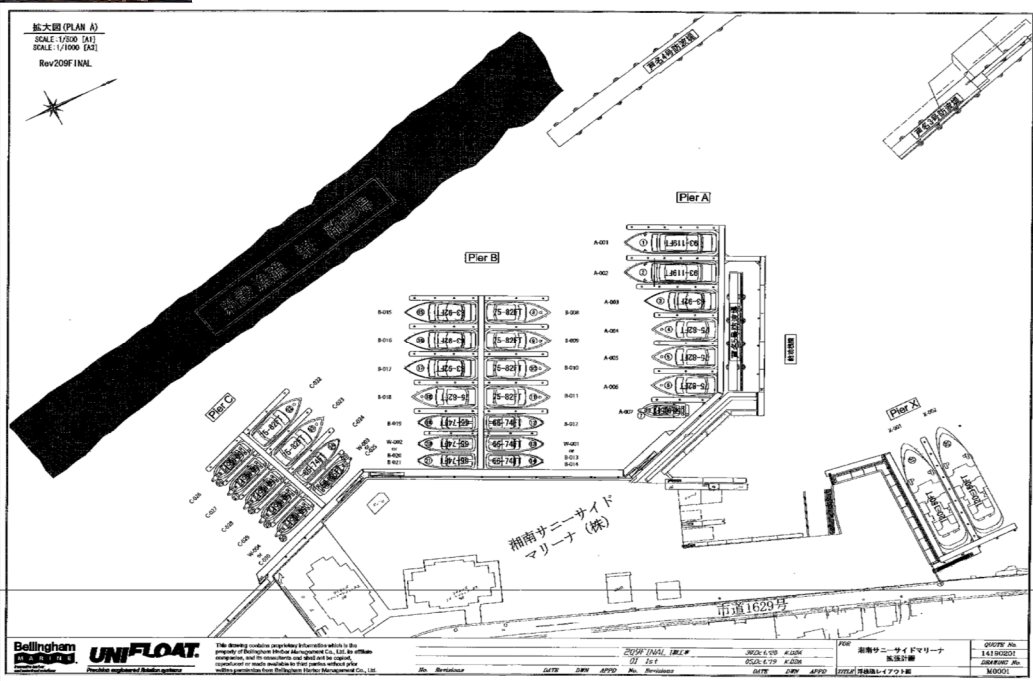
この会社がいま、市が管理する芦名漁港を乗っ取り、お金持ち向けの船舶係留施設に改造しています。市の許可も無いまま八月から勝手に工事を始め、一二月十七日に週刊新潮の記事が出たところ、慌ててその日のうちに許可申請を出しました。これで市が許可するならまるで「盗人に追い銭」です。

ちなみにこの船舶係留施設は、毎年数億円の売上を生む見込みです。一方、市に入ってくるのは年に占用料三十万円前後です。

※：帝国データバンク二〇一九年度情報

しかも、このマリナーは、天然記念物の自然保護区である天神島エリアまで破壊して造成されました。加えて、違法状態のまま公有水面埋立までされています。上地市長はなぜ無法者の会社を黙って見過ごし便宜を図るのでしょうか？ あまりにも不自然ですし、何か裏の力が働いているかのようなです。地元の住民や漁業者の質問状にもいっさい返事がないままです。

私たちは、宝の海をこれ以上汚されないよう湘南サニーサイドマリナー株式会社の暴挙を止めてほしいのです。そして、海を汚して稼いだお金を、罰金として払わせて、相模湾の環境保護に使ってほしいと願っています。皆様からも声をあげて頂きますよう心よりお願い申し上げます。

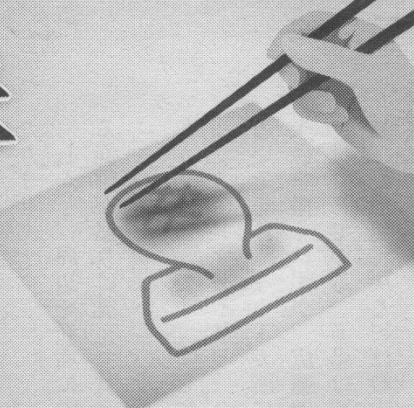


←「湘南サニーサイドマリナー拡張計画」と銘打って、船舶オーナーに配られた計画図面。違法な埋立と不法占用の動かぬ証拠。全区画とも市の許可を得ていないが完成間近。ぜひ実際に現地をご覧下さい。

※このチラシは、海の破壊に心を痛める篤志家の援助を受けて作成しました。
発行：相模湾海環境を守る会 〒238-0316 長井5-36-9(事務局長 鈴木軍次 090-8859-9922)
抗議先 横須賀市役所 みなと振興部 水産振興課
電話 046-822-8299 F238-8550 小三戸11

ワイド特集 絵に描いた餅

外出自粛で餅が空前の売行だという。年末年始の予定が「絵に描いた餅」に終わったからだろうが、かたや実現不能な理想を掲げて師走を彷徨う者もいる。ポエムばかりの環境大臣や甘言を弄する美容外科は言うに及ばず、ついに横綱がネオン街で……。餅を求めて右往左往、迷い人が紡ぐ夢物語をご覧あれ。



「小泉進次郎」地元後援者の「環境破壊」騒動には頬かむり

環境大臣のお膝元で「環境破壊」というブラックジョークである。小泉進次郎大臣(39)の支援者が大量の土砂を海洋投棄。地元から「海を殺す気か」と非難の声が上がっているのだ。



舞台となっているのは、進次郎氏の地元・神奈川県横須賀市にある大楠漁協。2019年8月、大楠漁協が管理する芦名漁港付近で波を防ぐための消波堤兼漁礁を設置する工事が漁協主体で始まった。工事箇所は岸から70mほどの場所。作業船が入るには水深が浅いため、海底の浚渫(しんせつ)、すなわち土砂を取り除く作業が行われたのだ。

問題は、その土砂の処理で、「以前から浚渫した土砂を沖合の海域に船を走らせながら投棄していたことがわかりました。当初は土砂を横須賀市内の処分場で処理するはずだったのに、このことで漁場に土砂が拡散し、魚が獲れなくなるなどの被害が出ているのです(同)」。さらに最近になり、この工事の「真の目的」が見えてきたという。

土砂を投棄する様子(上)とサニー社(右)

年が必要ですよ」セレブの道楽のためと思われ有力支援者の海洋環境破壊を環境大臣が頬かむりなんて。灯台下暗しで済ませてはなるまいぞ。

週刊新潮

民党支部に30万円の献金をしていきます。そのせいか、地元住民や近隣漁協が土砂の海洋投棄について市や環境省に問い合わせても、全く聞く耳を持たないのです」まさか、行政は大臣に「忖度」しているのか。当のサニー社の代表が一連の工事について、「基本的には地域の防災のためだよ」と言えば、大楠漁協の組合長もこう主張する。「我々は沖に良い砂を撒いて『つきいそ』(漁礁)を作っているんだ」環境省に訊くと、「漁礁を作るための土砂投入なので、法律違反には当たりません」しかし、周辺を漁場にする漁師が怒りに震えて言う。「このあたりはいろいろな魚が獲れるんです。エビにヒラメやアマダイなど。つきいそを作るなら1カ所に土砂を撒くはずが、広範囲に投棄している。漁場は壊滅。好漁場に戻るには数十

私たちの団体が把握しているこれまでの経緯

- 2019年
 - 3月27日 湘南サニーサイドマリナー株式会社の意を受けて大楠漁協が「漁礁兼消波堤」名目の離岸堤整備について市に申請書提出
 - 4月1日 上地市長が「漁礁兼消波堤」にかかる占用の許可証を交付
 - 6月20日 長井漁協と湘南サニーサイドマリナー株式会社間で協定書。同社による周辺海域の占用使用に同意し、「迷惑料及び漁業協力金」として1億5000万円を長井漁協に支払うとの内容
 - 6月20日 同社の意を受けた大楠漁協が「漁礁兼消波堤」名目の離岸堤整備について神奈川県農政部水産課に申請書を提出
 - 6月21日 県知事「漁礁兼消波堤の延伸及びその業務に使用する船舶の作業に必要な水深を確保するための岩礁破碎」に許可証交付
 - 8月23日 同社の意を受けた大楠漁協が浚渫及び海洋投棄を開始
 - 10月23日 漁業者が海洋投棄に対し「アカザエビ漁場で投棄するのはやめてほしい」旨を抗議。他にも多くの被害報告が相次ぐが不法投棄は継続
- 2020年
 - 3月頃 同社の意を受けた大楠漁協による離岸堤整備が完了。しかし、何故か浚渫と海洋投棄は続く
 - 8月21日 同社が無許可のまま船舶係留施設のための杭を設置開始
 - 8月28日 近隣自治会長から神奈川県知事及び横須賀市長に対し、違法工事について質問状提出(いずれも現在に至るまで回答なし)
 - 9月28日 地域住民が航空撮影により浚渫及び海洋投棄の現場を撮影
 - 10月12日 同社が無許可で一部係留施設を完成させ、船を係留(その後も増設)
 - 11月19日 地域住民からの情報提供を受け、横須賀市民オンブズマンと横須賀市議が調査開始
 - 12月4日 市・みなと振興部長が「近隣住民の同意がなくとも申請させて許可を出す」と明言
 - 12月17日 週刊新潮がスクープ
 - 12月22日 横須賀市民オンブズマンが横須賀市に住民監査請求。各紙の報道
 - 12月23日 浚渫による自然保護区域の環境破壊と違法埋立が発覚

※その他、詳しい情報は横須賀市議 小林伸行氏が12月15日のブログ記事にまとめてくれています。

